

2023. 12. 18

Report from AKATSUKA PARK

発行：赤塚公園ニリンソウを守る会(文責:木村)

●定例活動 2024/1/14 大門自生地手入れ 10:00 大門観察台集合(雨天予備日 1/21)

2/11 ニリンソウ開花前の手入れ 10:00 大門観察台(同 2/18)

*長袖。長スボン、動きやすい服装でご参加ください。飛び入り歓迎です。

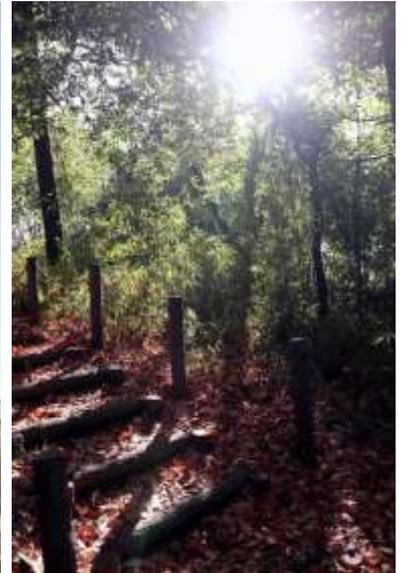
<問合せ：赤塚公園サービスセンター03-3938-5715>

秋深し春遠からじ冬は来るのか？

ため池公園の中州、「むく犬」の毛皮だったクズがすっかり枯れて、骨格の松の木が現れてきました。池のほとりのメタセコイヤは見事に紅葉して、日に当たるときれいです。太陽の位置が低いので、林の中を歩くと木漏れ日がまぶしい、ファンタジックな季節ではあります。



12/18 の観察会。9:00 のスタート時は 5.4℃と冷え込んでいましたが、終了時の 11:30 では 11℃を記録し、かなり温かくなっていました。



春に草原を彩る多くの野草は冬の間葉を広げて、陽の光を浴びて花を咲かす養分を体内に蓄えているので、今の時期に葉の展開が見られること自体はおかしなことではありません。でも、↓**ヒメオドリコソウ**の花が咲いているのはちょっと早すぎ。赤塚公園では2月の春の兆しが見えてきたときに「春一番」に咲きだしていたものなのですが、この植物はもう春が来たと感じているのかもしれない。



ヒメジョオン ↓は、春先から咲いている

ハルジオンと入れ替わって夏に咲くのが通例で、今頃は枯れているはず。確かに花は枯れ始めていました。ところが、



待てよ！ 次ページをご覧ください。

冬が迫っていても、咲き始める夏の花



←前ページの枯れ始めたヒメジオオンの隣で、新しい株が伸びてきて鮮やかな花を開かせていました。同居して咲いているピンク色の花は秋の遅くまで咲いている**ハナタデ**（?? イヌタデもまだ咲いているのですが、花穂が疎で色が少し浅いのでハナタデとしました）。

枯れている株のそばで新しい茎を伸ばして生き活きと咲いているのは**ヤブタバコ**も同様でした↓



←こちらは**オニタビラコ** 背丈は低く花も小さいのですが、広い範囲で満開でした。

季節感がめちゃ



くちやなり！ 今年の冬の植物の世界は「冬なのに冬じゃない」、おかしい様相になりそうです。

気候変化に**敏感な生物** = **植物** **鈍感な生物** = **人間**

人間は、寒ければ暖房をかけ、暑ければクーラーを目いっぱい動かして、自分の都合に合わせて自然をコントロールしてきました。その結果がこれまでにないような自然環境の悪化をもたらしているかもしれないのにまだ生き方を変えようとしらないのは、鈍感な生き物なのかも・・・。

ニリンソウはどうなっているのでしょうか？

大門地区のくぼ地では毎年 12 月に咲き始めるニリンソウがあります。このニリンソウは特異株として扱ってよいのですが、今年も咲いていました。

そのほかの場所であちこち咲き始めたら大変なことなのですが、12/18 の観察ではまだ地上への展葉は見られませんでした。

試しに、大門広場の「ウエルカム・ニリンソウ」（来訪者をいちばん最初に出迎えるニリンソウ）群

落の落ち葉の下を見てみると、根茎（地面の中の茎）の先から白くぽつちり葉茎（葉を伸ばすための茎）の先が見えていました。いつもの年と変わらない状態でした。



新年 1/14、2/11 はニリンソウシーズン前の大門自生地手入れ

ヤエムグラ、ヤブニンジン、ツタ・アケビのなどニリンソウの生長を妨げる植物に部分的に「ご遠慮」いただく草刈りを行います。「刈る」といっても、これらの植物も立派な生き物。お互いにお互いが影響しあって生きてきたはずだし、昆虫など動物の命の素にもなっています。生物多様性が保てるような管理を心掛けて、林の保護活動を行っています。

1/14 は高島高校の生徒さんもボランティアで参加してくれるようで、楽しみにしています。